

子どもゆめフェスティバル2017 祭



ダンス発表

市内の子ども会に所属する子どもたちが中心となり企画・運営する「子どもゆめフェスティバル2017」が平成29年11月18日(土)に長崎県立総合体育館サブアリーナにて開催されました。天候に恵まれ、約1,200名の方々が集い、フェスティバルとダンス発表で会場内は大いに賑わっていました。



ダンス発表



広報キャンペーン出発する
広報啓発専門委員



茂木ロープレィス大会



伊王島育成協「餅つき大会」

平成29年12月10日(日)に広報キャンペーンを行いました。本年度は茂木地区・伊王島地区を訪問し、子どもたちの輝く笑顔に出会いました。道中は青少年の健全育成活動についての啓発アナウンスを行いました。

広報紙コンクール表彰式

第24回広報紙コンクールで次の育成協の皆さんが表彰されました。

グランプリ	準グランプリ	進グランプリ	記事賞	写真賞	キヤッチコピー賞	レィアウト賞	会長賞	こどもみらい課長賞
大浦中学校区青少年育成協議会「ただんはら」	式見中学校区青少年育成協議会「かくら」	小ヶ倉中学校区青少年育成協議会「いせいきょう」	土井吾中学校区青少年育成協議会「青少年育成協議会便り」	桜馬場中学校区青少年育成協議会「育成協だより」	小島中学校区青少年育成協議会「戸町っ子だより」	戸町中学校区青少年育成協議会「すまいる」	村松小学校区青少年育成協議会「敬川っ子だより」	



今年度は20の育成協から応募がありました。どの作品も工夫が凝らされ審査会では審査員の頭を悩ませるものばかりでした。
なお、昨年度のグランプリを受賞した片淵中学校区青少年育成協議会「こんびらさん」に本年度の審査に加わっていただきました。

編集後記

昨今「子どもの貧困」が話題に上がっています。今や6人に1人の子どもが相対的貧困といわれています。子どもの健全育成や居場所作りを目指し、楽しい行事をほぼ無償で提供してきた子ども会や育成協の活動は、現代の子どものソーシャルネットの一つです。「子どもは地域の宝」を言葉に今後も取り組んでいきたいですね。(広報啓発専門委員N.M)

のびゆく長崎っ子

平成30年3月6日
長崎市青少年育成連絡協議会だより

84

今号の内容

- ・活動事例発表会
- ・広報キャンペーン
- ・編集後記
- ・子どもゆめフェスティバル2017
- ・第24回広報紙コンクール表彰式

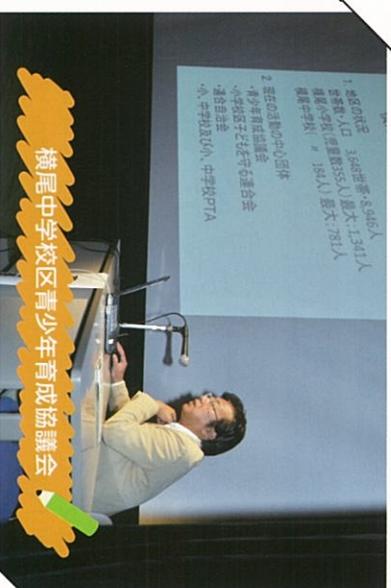
活動事例発表会



質疑応答の様子



日見中学校区青少年育成協議会子ども会育成部



横尾中学校区青少年育成協議会



野母子ども会



黒崎中学校区青少年育成協議会

青少年育成協議会活動事例発表会

平成29年度

1 日見中学校区青少年育成協議会子ども会育成部

ぶっちょやけたら子ども会が楽しくなった

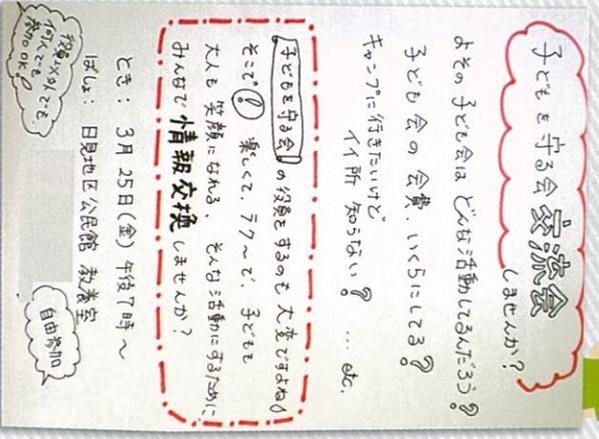
部長 松山 ルミ

日見地区は、長崎市の東部に位置し、海と山に囲まれた自然豊かなまちです。まちの中央にある日見公園には、いつも子ども達の元気な声、それを見守る地域の大人の目も温かく、子育ての環境には理想的なまちです。しかし、なぜか子ども会が衰退しているのです。[このままではいけない！何かしなくては！]

そこで、私が子ども会のお世話をしていた時を思い返し、「そうだ、子どもを守る会交流会をやってみよう」と思いついたのでした。若いお母さんに声を掛けるのとても勇気のいることでしたが、チラシを作り、お一人お一人へお誘いの電話をしてみました。そうすると、8つのうち7つの子どもを守る会が参加する交流会が開催できたのです。

交流会であげられた意見等は、「何をしたいかわからない」「お金がない」「子どもはたごさんいられるけれど休止状態」などの悩みでした。

この時始めた交流会が、現在、育成協の専門部「子ども会育成部」に発展し、子ども会活動の活性化や加入率の向上に取り組みおきかけとなりました。正直、みんなでぶっちょやけながら楽しんでいきます。まずは私達、子ども会育成部のメンバーが楽しむことで日見地区の子ども会をもっと楽しくしていきたいと思えます。



2 横尾中学校区青少年育成協議会

横尾地区のめざすべき将来像

「笑顔でつながるALL横尾」

事務局長 山北 守
事務局次長 横山 隆幸

横尾地区は、長崎市の北部に位置する昭和40年代にバットタウンとして開発された団地であり、横尾小学校と横尾中学校がある。子ども達の健全育成を目的として、「こいのぼり上げ」「ウオーケラリー」「横尾まつり」「餅つきマラソン大会」「子育て支援講座」など数多くの活動を実施している。

● 前回の発表（平成22年1月）での課題に対する取り組み

- 1 若い役員の育成（後継者の育成）
 - 育成協メンバーのうち、子育て世代の55名が入った。
 - 小学校の保護者で活動に積極的に参加してもらええるサポーター一部をつくった。
- 2 子どもだけでなく、保護者の参加を促した。
- 3 子どもたちの各イベントへ参加する人数が減っているため、チラシの指導者に対して協力依頼を行った。



「まちづくり計画」の策定の様子



- 今後の育成協の活動について
- 今後、少子高齢化のなか、他の多くの団体と協力し、将来を見据えたまちづくり計画をすすめている。

3 野母子ども会

クリスマス会 顧問 増田 正行

野母子ども会は中学生15人、小学生20人の計35人で構成されています。昨年度まで、それぞれ6つの子ども会で活動していましたが、児童数の減少で2つの子ども会が活動を停止し、他の子ども会も行事をこなすのみで低迷していました。

そこで、平成29年4月から野母子ども会に統一し、年間行事は増やさず中身の充実を目指しました。

- 6月 子ども役員会
- 8月 エポーツパーハキュー大会
- 12月 クリスマス会
- 1月 さんわノモザキ子ども祭り
- 3月 お別れ会



クリスマス会で楽しい夜

クリスマス会は事前に行った役員会で、日時と内容、それぞれの担当者を決めました。当日、中学生は男女に分かれてカシー作りを担当し、小学生はデザートとクッキー作りを担当しました。

カシー対決は保護者どおしによる投票で女子チームが優勝し、負けた男子チームは鍋洗いをしました。また、デザートのクルーツボソッチのサイダーにラムネを入れた時には歓声が上がりました。

最後にツリーの前で集合写真を撮影しました。児童数の減少は保護者の減少につながります。今後は祖父母と子ども会OB・OGIに応援をいただき、楽しい子ども会活動にしていければと思います。



クッキーが出来上がってます！

4 黒崎中学校区青少年育成協議会

出津川のホタル鑑賞会 会長 和泉 吾郎

豊かな自然に囲まれている外海地区は、キリスト教関連遺産産地として世界遺産候補地となっています。外海黒崎小学校は47名、黒崎中学校は63名と小規模校で、地区の人口も年々減少してきています。そのため、子ども会単独の活動も難しく、また、近年は子ども会の入会率や地域行事の参加率の低下が見られますが、成功している取り組みもあります。きれいな出津川で開く「ホタル観賞会」です。幻想的なホタルを見ようと多くの人が集まります。そこで、自治会長、地域の有志グループ、PTA

役員、子ども会役員が協力して、焼きそばや焼き鳥、かき氷などをふるまっています。夜の行事とあって、子どもたちは大はしゃぎ。高校生や地域の方も多数の参加があり、にぎやかな交流会ができています。

今後も参加しやすい活動、参加したくなるような活動を目指して、地域・学校・保護者が連携して、子どもたちの成長を見守ってまいります。



みんな焼きそば、焼き鳥に並んで、おいしく食べたい



次々と準備はかわらわらしい悲鳴!!